

PMDA共催企画 あなたの心に触れる 薬局における安全性情報の利活用

座長
日本薬剤師会副会長
川上純一
NTT東日本関東病院
折井孝男

医薬品は、私たちが健やかで幸せな生活を送るうえで必要不可欠なものである。科学技術の進歩により私たちはさまざまな困難を乗り越えてきた。医薬品は、言わば人類の叡智の結晶であり、これらを通じてさまざまな疾病を克服してきたと言える。

患者さんが従来にも増して安心して医薬品を服用・使用するためには、薬剤師による安全性情報の提供・共有が必須となる。

米国の基幹病院では、半数を超える患者さんがインターネットで自分の病気にに関するevidence based-medicineのデータを持ってくると言われている。患者さんが病院内からMEDLINEなどのデータベースへアクセスすることをアシストする仕組みもあるようだ。

このようなコンピューターリテラシーの向上は、医薬品に関する知識を、医療という世界の秘儀から、患者(消費者)さんに対して開かれた情報に変化させていく契機となっている。わが国においても患者さん側からの医薬品情報へのアクセスは急速に容易になり、医療サービスのあり方を今後さ

らに変化させていくことと思われる。一方、薬局からどれほど質の良い情報が提供できるかは、患者さん、薬剤師関係の本質的な部分に影響を与えざるを得ないのではないだろうか。個々の患者さん、さらに社会全体に対しても、医薬品に関する質の良い情報提供は信頼関係に変化していくものと思われる。

本分科会では、最初に基調講演として、厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全対策課長の中井清人先生に、薬局薬剤師に期待する患者さんの心に触れる安全性情報のあり方についてご講演いただく。

次に、北海道大学大学院の小笠原克彦先生には、医療情報の専門的な立場から情報の扱い方について、医薬品医療機器総合機構(PMDA)杉山祥子先生からは、リスクコミュニケーションツールの一つであるリスク管理計画(Risk management plan: RMP)を中心に、薬局薬剤師の先生方が安全性情報を利活用するために必要なリスクコミュニケーションツールの特徴と活用方法を紹介していただく。

さらに、薬局薬剤師の立場として東京都薬剤師会の小野稔先生からは、薬局における安全性情報の利活用について具体的なお話をいただき、最後にフロアを含め、シンポジストの先生方と討論することとしたい。(折井孝男)

高齢者の医薬品適正使用の推進 ～高齢者の特性に則した ポリファーマシー解消に向けて～

座長
福岡県薬剤師会会長
原口亨
北海道薬剤師会常務理事
宇野雅樹

高齢者は一般的に複数の疾患を抱える(マルチモビリティ)の傾向が高く、代謝など身体的機能の低下等によりポリファーマシーの状態に陥るケースが多々見受けられ、その改善が急務となっている。

本分科会では高齢者の特性を正しく理解すると共に、実際の取り組み事例をもとに病院薬剤師、薬局薬剤師またその連携等を通して、高齢者の医薬品適正使用推進に向けて議論する。

基調講演は、「高齢化に伴う医療ニーズの変化と薬物療法の位置づけ」と題して、首都圏において常時4600人の患者さんの生活を24時間体制でサポートしている医療法人社団悠翔会理事長・診療部長の佐々木淳氏から、高齢とそれに伴い発生する医療ニーズの変化、その中で薬物療法が果たすべき役割について講演いただく。

次いで国立研究開発法人国立長寿医療研究センターの溝神文博氏から、「多職種協働によるポリファーマシー対策：病院薬剤師の立場から」のテーマで、同センターで行われている「高齢者薬物療法適正化チーム」でのポリファーマシー対策の取り組みを紹介いただき、病院薬剤師のポリファーマシー対策のあり方について講演いただく。

広島市域薬剤師会ポリファーマシー対策事業実行委員会の石村智加子氏からは「広島市における行政と薬局が連携したポリファーマシー対策事業」として、ポリファーマシー対策事業の始まりから今後の取り組みの中で地域包括ケアにおける薬局薬剤師や地域薬剤師会の存在意義について講演いただく。

北海道薬剤師会の山田武志氏からは、北海道で行われた「高齢者医薬品適正使用推進事業に関する検証結果」を報告いただき、高齢者における医薬品適正使用推進に向けてどのような取り組みが必要か、それぞれお話しいただく。

その後の討論を含め高齢者の医薬品適正使用推進の一助となれば幸いです。(宇野雅樹)

オリンピック・パラリンピック・レガシー としてのアンチ・ドーピングを考える

座長
日本薬剤師会常務理事
亀井美和子
北海道医療大学薬学部薬学教育推進講座特任教授
笠師久美子

日本は1964年東京、72年札幌、98年長野においてオリンピックならびにパラリンピック競技大会(オリパラ大会)を開催したが、TOKYO2020は日本アンチ・ドーピング機構(JADA)公認スポーツファーマシストが誕生してから初めて迎える国際総合競技大会である。

過去の大会を振り返り、運営やオリパラ大会期間中のアンチ・ドーピング活動がどのように展開されたのか、各シンポジストから情報提供いただく。

基調講演として、JADA鈴木秀典会長よりアンチ・ドーピングの最新情報をご紹介頂き、特に21年から大きく様変わりする世界アンチ・ドーピング規程で重視されている「教育」において、今、スポーツファーマシストのみならず薬剤師に何が求められているのかについてお話しいただく。

続いて4人のシンポジストからご発

言いただくが、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の佐藤文香先生からは東京オリパラ大会運営準備の立場からアンチ・ドーピングを考慮した医療サービスの一端をご紹介いただく。

北海道オール・オリンピックス、JADAアスリート委員の鈴木靖先生にはオリンピックとしての経験からアンチ・ドーピング活動の重要性について、JADA打谷桂子先生にはオリパラ大会でのアンチ・ドーピング教育・啓発活動について、岩手県薬剤師会の本田昭二先生には競技団体に所属する薬剤師の立場から、今後のアスリートのためのアンチ・ドーピングには何が必要かという内容でお話しいただく。

COVID-19による感染拡大の影響で多くの競技大会やスポーツ活動が中止となっているが、今後、活動再開に際して、アンチ・ドーピングを理解した上での医療支援が必要となってくる。21年に開催が予定されているTOKYO2020において、現在の運用状況ならびにアンチ・ドーピングに関する情報を共有し、薬剤師によるアンチ・ドーピング活動展開の可能性を探る。

(笠師久美子)



会場の一つとなるロイトン札幌

げんまつ こきくじ おうがん 第2類医薬品 ウチダの「原末・杞菊地黄丸」

ウチダの丸剤に新しく「杞菊地黄丸」が加わりました。これまでのウチダの丸剤同様、生薬の薬効を丸ごと詰め込んだ「原末」で作られた丸剤です。老化などによる目のかすみから、パソコンの多用による目の疲れなど、現代人の目の諸症状に。



株式会社ウチダ和漢薬
https://www.uchidawakanyaku.co.jp/

KOKANDO 解熱鎮痛薬 ロキソプロフェン錠「クニヒロ」

頭痛、生理痛に



ロキソプロフェン錠「クニヒロ」は、プロスタグランジンの生成を抑え、痛みや熱に効果をあらわすロキソプロフェンナトリウム水和物を成分とした錠剤です。

- 頭痛・月経痛(生理痛)・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・腰痛・関節痛・神経痛・筋肉痛・肩こり痛・耳痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・外傷痛の鎮痛
- 悪寒・発熱時の解熱

皇漢堂製薬株式会社 尼崎市長洲本通2丁目8番27号 TEL 06-6482-5115(代)